



平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月10日

上場会社名 愛眼株式会社

上場取引所 東

コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐々 昌俊

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	8,610	3.0	330	873.1	359	415.7	258	
29年3月期第2四半期	8,361	4.1	33	86.4	69	77.2	215	

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 275百万円 (%) 29年3月期第2四半期 279百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	13.31	
29年3月期第2四半期	11.09	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	17,080	14,266	83.5
29年3月期	16,773	13,991	83.4

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 14,266百万円 29年3月期 13,991百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,659	4.4	94		177		68		3.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	21,076,154 株	29年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	1,667,607 株	29年3月期	1,667,577 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	19,408,566 株	29年3月期2Q	19,408,664 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が進み、緩やかに回復しておりますが、一方で、米国トランプ政権の政策運営動向や北朝鮮情勢の緊迫化などによって先行きの不透明感が高まっております。個人消費に関しては、緩やかに回復してきているものの、賃金の伸び悩みや社会保険料の負担増加などに加え、消費者物価が前年比プラスに転じたことが可処分所得の重石となっており、引き続き消費者の節約志向が続いております。

このような状況のもと当社グループは、お客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた諸施策による事業収益の拡大と、経費コントロールなどによる経営効率の向上を進めることで、成長軌道のスタート点である黒字化に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の既存店売上が堅調に推移したことにより、売上高は8,610百万円（前年同四半期比3.0%増）となり、売上総利益率は0.9ポイント改善しました。一方、広告宣伝費の効率的な運用など経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は5,624百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。この結果、営業利益は330百万円（前年同四半期比873.1%増）、経常利益は359百万円（前年同四半期比415.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は258百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失215百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、お客様の嗜好、ライフスタイルに合った最適な商品の提供を目指す「アイスタイリング・サービス」を主軸にした愛眼ブランドの強化に鋭意取り組んでおり、高い専門性と安心感をお客様に実感していただける店舗運営を目指しております。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとした快適で機能的なレンズやフレームなどの高付加価値商品を増強し、価格志向、品質・性能・デザイン性重視など幅広い年齢層のお客様の様々なニーズに即した商品の品揃えの充実に努めてまいりました。

売上高につきましては、既存店の客数が前年同四半期比で増加するとともに、品揃えの拡充により販売単価が改善した結果、増収となりました。品種別では、サングラスは販売促進の強化を図りましたが、前年同四半期比で若干減少いたしました。一方、補聴器はレンタルサービスとアフターケアが好評を得ており、堅調に推移しております。

店舗につきましては、2店舗を出店、2店舗を閉店したほか、計画的な既存店の活性化を進め、7店舗で改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は8,232百万円（前年同四半期比3.6%増）、セグメント利益は390百万円（前年同四半期比275.9%増）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する販売支援を通じ、業績向上のバックアップに努めるとともに、新規得意先の開拓に取り組んでおりますが、売上高は244百万円（前年同四半期比8.8%減）となり、セグメント損失は0百万円（前年同四半期はセグメント利益1百万円）となりました。

[写真館事業]

写真館（名称：愛写館）3店舗を営む写真館事業につきましては、競争の激化により厳しい状況が続いておりますが、第1四半期に横浜本店の改装を実施するとともに、外販活動を強化するなどの売上向上策に取り組んでおります。

この結果、写真館事業における売上高は54百万円（前年同四半期比1.7%減）、セグメント損失は35百万円（前年同四半期はセグメント損失23百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、経営環境が引き続き厳しい状況にあるなか、商品ラインナップの拡充等に取り組む、採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は78百万円（前年同四半期比15.2%減）、セグメント損失は6百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は17,080百万円、負債合計は2,813百万円、純資産合計は14,266百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が31百万円増加し、純資産合計が275百万円増加した結果、自己資本比率は83.5%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、2,328百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動におけるキャッシュ・フローは625百万円（前年同四半期比221.6%増）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益354百万円、賞与引当金の増加額122百万円、売上債権の増加額△121百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動におけるキャッシュ・フローは△154百万円（前年同四半期は△259百万円）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出△187百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは△285百万円（前年同四半期は△127百万円）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出△225百万円、リース債務の返済による支出△60百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,901	5,085
受取手形及び売掛金	753	873
商品及び製品	2,251	2,217
原材料及び貯蔵品	29	33
その他	231	251
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	8,163	8,457
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,026	1,050
土地	1,887	1,887
リース資産（純額）	34	25
その他（純額）	79	139
有形固定資産合計	3,028	3,103
無形固定資産		
リース資産	54	46
その他	14	12
無形固定資産合計	69	59
投資その他の資産		
投資有価証券	1,393	1,422
敷金及び保証金	3,468	3,387
その他	649	649
投資その他の資産合計	5,511	5,459
固定資産合計	8,609	8,622
資産合計	16,773	17,080

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	547	632
1年内返済予定の長期借入金	225	—
未払法人税等	185	168
賞与引当金	—	122
その他	1,020	1,142
流動負債合計	1,979	2,064
固定負債		
繰延税金負債	49	58
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	338	333
リース債務	240	183
その他	167	167
固定負債合計	802	748
負債合計	2,781	2,813
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	4,926	5,185
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,316	16,574
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	116	135
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	29	27
その他の包括利益累計額合計	△2,325	△2,308
純資産合計	13,991	14,266
負債純資産合計	16,773	17,080

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	8,361	8,610
売上原価	2,649	2,656
売上総利益	5,711	5,954
販売費及び一般管理費	5,677	5,624
営業利益	33	330
営業外収益		
受取利息	9	5
受取配当金	6	6
受取家賃	34	33
その他	27	19
営業外収益合計	76	64
営業外費用		
支払利息	1	1
固定資産除却損	5	5
賃貸費用	22	21
その他	10	7
営業外費用合計	41	34
経常利益	69	359
特別損失		
減損損失	232	5
投資有価証券評価損	1	—
特別損失合計	234	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△164	354
法人税、住民税及び事業税	48	94
法人税等調整額	2	1
法人税等合計	50	95
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△215	258
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	△215	258

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△215	258
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△46	18
為替換算調整勘定	△17	△1
その他の包括利益合計	△64	16
四半期包括利益	△279	275
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△279	275
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△164	354
減価償却費	105	78
減損損失	232	5
賞与引当金の増減額(△は減少)	8	122
売上債権の増減額(△は増加)	76	△121
たな卸資産の増減額(△は増加)	0	29
仕入債務の増減額(△は減少)	8	85
その他	8	153
小計	275	707
利息及び配当金の受取額	16	12
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△100	△96
法人税等の還付額	4	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	194	625
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	5	—
有形固定資産の取得による支出	△161	△187
投資有価証券の取得による支出	△202	△3
投資有価証券の売却による収入	—	0
その他	99	35
投資活動によるキャッシュ・フロー	△259	△154
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△30	△225
リース債務の返済による支出	△59	△60
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△38	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△127	△285
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△195	184
現金及び現金同等物の期首残高	1,975	2,144
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,780	2,328

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

I 前第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	7,944	268	55	93	8,361	—	8,361
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	40	—	—	40	△40	—
計	7,944	308	55	93	8,401	△40	8,361
セグメント利益又は損失 (△)	103	1	△23	△5	77	△43	33

（注）1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失（△）の調整額は、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△49百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

（単位：百万円）

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	121	—	—	—	110	232

（注）「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	8,232	244	54	78	8,610	—	8,610
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	44	—	—	44	△44	—
計	8,232	288	54	78	8,655	△44	8,610
セグメント利益又は損失 (△)	390	△0	△35	△6	348	△18	330

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△26百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、「その他」に含まれていた「眼鏡卸売事業」及び「海外眼鏡販売事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：百万円）

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	5	—	—	—	—	5

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。